

Bコース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	株式会社 Rococo.w
所在地	東京都中央区銀座六丁目2番3号
業種	(N) 生活関連サービス業
常用労働者数	5名
事業内容	女性向けエステサロン・エステシヤン育成スクール
ホームページ	https://bustupschool-rococo.com/

1 ニーズ調査

① 実施日	令和8年1月27日
②方法	調査票を都内に勤務する全従業員にメールで送付
③回収率	対象者（都内勤務全従業員）5名のうち回収数 5名 回収率100%（回収数／対象者）
④調査結果概要	（調査により明らかになった課題） ・現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について 今回のアンケート調査の結果、現時点で介護に従事している従業員、および過去に介護経験を持つ従業員は「0名」という結果であった。現在は直接的な介護負担を抱える社員はいないものの、従業員の親族構成を鑑みると、潜在的な介護リスクは全社的に存在している状態にある。 ・今後の従業員の介護見込みについて 今後5年以内に介護が発生する可能性について、「可能性がある」と回答した従業員が20%に達している。現時点では表面化していないものの、数年以内には従業員の5人に1人が仕事と介護の両立という課題に直面する見込みであり、優秀な人材の離職を防ぐための体制整備が急務となっている。 ・就業規則、規程内の介護関係制度に関する認知状況について 社内の介護支援制度（介護休業・休暇等）に関する認知度は極めて低く、従業員の60%が「制度があるか知らない」、40%が「制度はない」と回答した。実際には法定の規定を整備しているものの、従業員には全く浸透しておらず、制度の周知・可視化および、利用促進に向けた啓発活動が最優先の課題として浮き彫りになった。 ・介護と仕事の両立に関する不安について 介護を担うことへの不安として、公的保険制度の仕組みへの理解不足に加え、「社内の制度を利用しにくい雰囲気がある」との回答が100%（介護見込み層）を占めた。また、上司や同僚に「相談できる雰囲気が

④調査 結果 概 要	ない」とい う回答が目立っており、制度の有無以前に、心理的なハードルの高さや職場環境の硬直化が両立における大きな懸念事項となっている。 ・介護が続いた場合の望ましい働き方及び社内制度について 従業員の多くが介護休業を「介護に専念するための期間」と捉えており、本来の目的である「仕事と介護の両立体制を構築するための期間」と しての認識が不足している。今後は、介護休業後の円滑な職場復帰を前提 とした意識改革を行うとともに、テレワーク、時間単位の休暇、柔軟な労働時間制度の導入など、個々の介護フェーズに合わせた多様な働き方の選 択肢を整備することが強く求められている。			
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況				
設置日	令和8年1月8日			
②メンバー	総計2名（うち都内勤務の従業員1名） （メンバー内訳）社長・一般社員			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	1月8日	14:00～16:00	活動内容、調査結果確認	2名
	2月2日	11:00～12:30	取組案の検討、意見交換、確定	2名
	月 日			名
3 策定した取組計画（内容及び取組時期）				
令和8年4月～ 定期的な個人面談の実施 令和8年10月～ 介護と仕事の両立に関する研修の実施				
4 経営者・管理職への体験型研修の実施				
☒ 有り・無し（いずれかに○）				